

い と う ひ ろ ぶ み ぼ し ょ
伊 藤 博 文 墓 所

名 称：伊藤博文墓 所在地：品川区西大井 6-10-18
指定年月日：昭和 55 年 3 月 11 日 史跡第 19 号

伊藤博文 (1841～1909) は、幕末から明治時代に活躍した政治家です。幼名は利助・俊輔、号は春畝^{しゅんぼ}。父は萩藩（現、山口県）の下級武士。吉田松陰に師事して尊皇攘夷運動^{そんのうじょうい}に身を投じましたが、イギリスに留学して開国論に転じています。

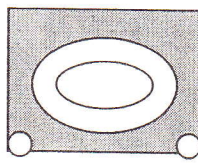
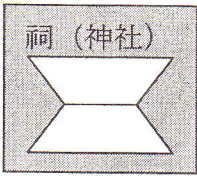
明治維新後、政府の要職を務め、明治 15 年 (1882) にはヨーロッパに渡って憲法や政治制度などの調査を行ってきました。その成果をもとに大日本帝国憲法の制定や内閣制度の採用など、近代日本の政治制度の基礎を築き、明治 18 年 (1885) には初代内閣総理大臣となりました。

明治 38 年 (1905) から 5 年間韓国統監を務めたあと、明治 42 年 (1909) にロシア蔵相との会談のため、中国東北部のハルビンを訪れたとき、朝鮮の独立運動家、安重根^{アンジュンゲン}に狙撃され亡くなりました。

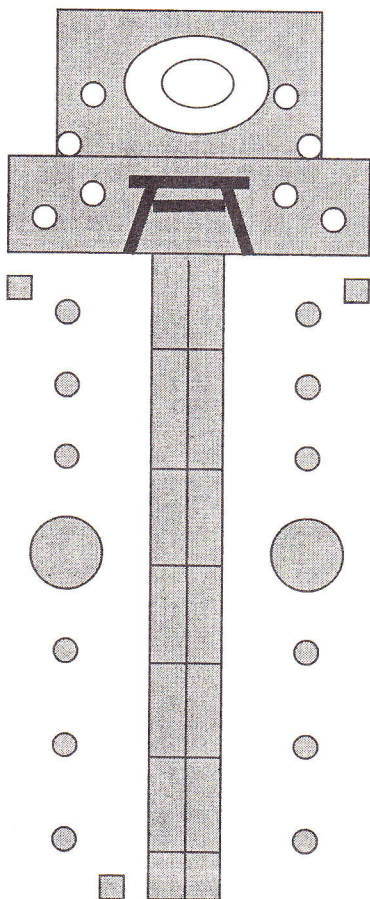
※
自邸がこの近くにあったことから国葬のあと、この地に葬られました。高さ約 2 メートルの円墳の前に配した神式の墓所で、右隣のやや小型のものは梅子夫人の墓です。

※ 伊藤公の旧宅は、現在の品川区大井 3 丁目 18 番付近にありましたが、平成 10 年に解体され、旧邸の一部は山口県萩市の伊藤博文旧宅の地に接して移築、保存されています。

伊藤博文墓域略図



子爵 末松謙澄
同 生子



鳥居跡

隣地・公園



伊藤博文公生誕百年記念
紀元2600年10月16日建立
春畝公追頌会

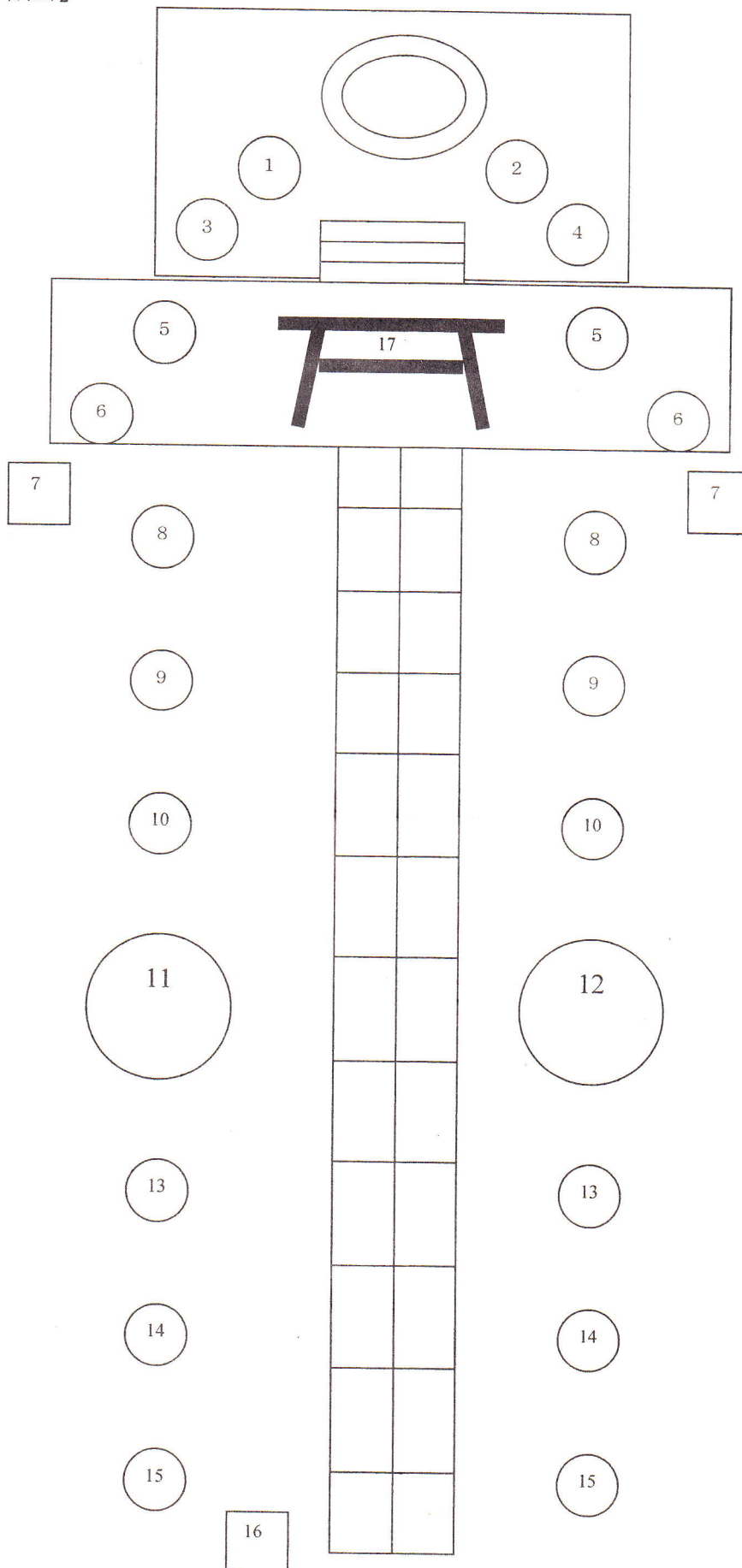
(水盤) 奉獻
福岡県 貝島大助
明治四十三年十月二十六日

大正八年十月二十六日丁伊藤公十周年祭左記
諸氏以墓前道路狹窄相謀購傍近民有地二十余
坪得東京府庁可拡張合公道以為記念
子爵 伊東巳代治 男爵 金子堅太郎
頭本元 鍋島桂次郎 室田義文 小倉三保
小山善 安楽兼道 鮫島武之助



(門柱) 貴族院議員有志建 明治四十三年十月
もともとは、伊藤博文墓の敷石の入り口のところに建てられた鳥居であった。関東大震災で倒壊し、その後門扉に利用したとのことである。

【伊藤博文墓略図】



1. 西朝子 伊藤真一 同好子 ほか (西朝子・伊藤真一両氏は博文の子)
◇昭和4年10月26日
2. 男爵 伊藤文吉 ほか
◇昭和4年10月26日
3. 益明 侯爵 桂太郎
◇明治42年12月
4. 永輝 侯爵 井上馨
◇明治42年12月
5. 葬儀掛長 枢密院顧問官 子爵 杉孫七郎
葬儀掛 (連盟)
◇明治43年6月
6. 公爵 毛利元昭
◇明治43年10月
7. 印度杉二株寄進
内閣総理大臣兼大蔵大臣 侯爵 桂太郎
陸軍大臣 子爵 寺内正毅
外務大臣 伯爵 小村寿太郎
海軍大臣 男爵 齋藤実
内務大臣 男爵 平田東助
農商務大臣 男爵 大浦兼武
逓信大臣 男爵 後藤新平
文部大臣 小松原英太郎
司法大臣 子爵 岡部長職 (ながもと)
◇明治43年3月寄進
8. 公爵 山県有朋 子爵 伊東巳代治
侯爵 松方正義 子爵 黒田清綱
伯爵 樺山資紀 男爵 西徳二郎
伯爵 東久世通禧 (みちとみ) 子爵 税所篤
子爵 福岡孝弟 (たからか) 子爵 金子堅太郎
侯爵 佐々木高行 子爵 末松謙澄
男爵 細川潤次郎 子爵 清浦奎吾
子爵 河瀬眞孝 男爵 南部甕男 (みかお)
子爵 中牟田倉之助 男爵 加藤弘之
男爵 大鳥圭介 子爵 青木周蔵
男爵 九鬼竜一 男爵 都筑馨六
男爵 高崎正風 伯爵 香川敬三
子爵 杉孫七郎 子爵 渡邊千秋
侯爵 蜂須賀茂詔 (もちあき) 男爵 牧野伸顕
子爵 高島鞆之助
◇明治42年12月

9. 満州随行員建
室田義文 古谷久紹
松本直光 鄭永邦
森泰二郎 小山善
黒沢滋太郎
◇建立時期無
10. 国家学会
◇明治43年5月19日
11. 立憲政友会
勤施四方
永坂周敬書 三河岡崎嶺田久七刻
大正12年9月1日震災罹 大正13年9月再建 立憲政友会本部
◇明治43年10月
12. 立憲政友会
明光上下
永坂周敬書 三河岡崎嶺田久七刻
◇明治43年10月
13. 高島嘉右衛門 献鏡
◇明治43年10月
14. 藤田光徳 立
◇明治43年10月
15. 奉献 従二位 一等子爵 渡邊昇
16. 敷石
貴族院議員有志者
◇明治43年10月 寄進
17. (鳥居)
西園寺公望 拝建
◇明治45年7月